

# イネ縞葉枯病の総合防除に

## 取り組みましょう!

あなたの地域では  
この様な症状が出て  
いませんか?



縞状の病斑



分けつ期の症状



穂の出すくみ

イネ縞葉枯病防除マニュアル(茨城県版)R3年5月発行より抜粋

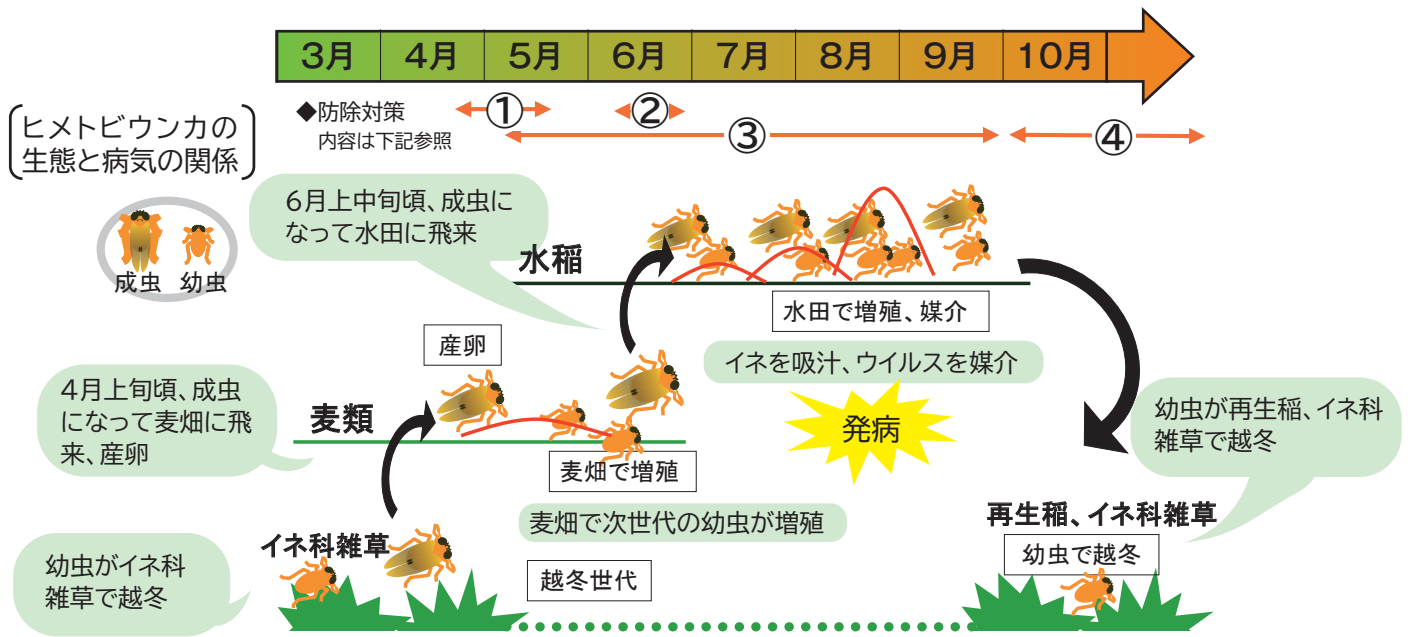
### Q イネ縞葉枯病ってどんな病気?

**A** イネ縞葉枯病はヒメトビウンカが媒介するウイルス病です。  
新葉がしま状に黄色くなり、細く巻いて(こより状になり)垂れ下がって枯死したり、穂が出すくんだり不稔になるなど、健全な穂が減ることで収量が低下します。発病すると治らないため予防対策が必要です。

## 耕種的防除や化学的防除を組み合わせた「総合防除」により 地域全体で防除対策を進めましょう 🙌

- ◆ 病気の発生を防ぐためには、**抵抗性品種の導入**をすすめるとともに、地域全体で病気を広げるヒメトビウンカの生息密度を減らすために**育苗箱施用と本田散布を組み合わせた体系防除を実施**することが効果的です。
- ◆ **ひこばえ(再生苗)のすき込み**や**畦畔除草**により秋～冬のヒメトビウンカの生息場所を減らすことも重要です。
- ◆ 育苗箱施薬剤や抵抗性品種を選ぶ場合には、生産前に必ず販売先(JA、集荷業者等)へご相談ください。

# ヒメトビウンカはどうやって増えるの？ どうやって発病するの？



## ～防除対策は組み合わせて実施しましょう～

### 化学的防除

- ① 水田に飛来するウンカの対策に育苗箱施用を実施する。
- ② 水田で増殖するウンカの対策に本田散布を実施する。

育苗箱施用や本田散布のみの場合よりも、2つを組み合わせる**体系防除**が効果的です

### 耕種的防除

- ③ 抵抗性品種を導入する(ウンカの増殖は防げません)。
- ④ ウンカの生息場所となるひこばえ(再生稲)を早めにすき込むとともに、水田周辺の除草を徹底する。

抵抗性品種の導入が進めば、この病気の発生を少なくすることができます。  
 県西地域における令和6年産 抵抗性品種の導入割合は**約31%**(推計)

### 主な抵抗性品種とその特徴

	品種名	早晩生	特徴
主食用米	一番星	早生の早	高温耐性を持ち、白未熟粒が発生しにくい。本県における成熟期は5月上旬移植で、8月中下旬頃。県オリジナル品種。
	ふくまるSL	早生の晩	「コシヒカリ」よりも成熟期は7日～10日早く、収量は、適切な肥培管理により約2割増収する。県オリジナル品種「ふくまる」にイネ縞葉枯病抵抗性を付与。
	にじのきらめき	中生	高温耐性は「やや強」で、白未熟粒が発生しにくい。本県における成熟期は「コシヒカリ」よりも3日～5日遅く、収量は、多肥栽培により約1～3割増収する。
	あさひの夢	晩生	本県における成熟期は5月上旬移植で、9月中旬頃。収量は、適切な肥培管理により「コシヒカリ」よりも約2割増収する。
飼料用米	夢あおば	早生	飼料用・WCS兼用品種。4月下旬移植において、成熟期は9月中旬頃。種が落ちにくく、とても倒れにくい。
	月の光	晩生	5月中下旬移植において、成熟期は10月上旬頃。種が落ちにくく、倒れにくい。

より詳しく防除対策を知りたい場合は  
 茨城県農業総合センター農業研究所HPへ  
 アクセス  
 (イネ縞葉枯病防除マニュアル掲載中)



イネ縞葉枯病に関する対策のご相談は、お近くの地域農業改良普及センターへお願いします。

- ◆県西農林事務所経営・普及部門 ☎ 0296-24-9206
- ◆結城地域農業改良普及センター ☎ 0296-48-0184
- ◆坂東地域農業改良普及センター ☎ 0297-34-2134